

<ラウンドテーブル報告 3>

協同教育にもとづく授業実践

【企画者】長濱文与・中山留美子・中島 誠(三重大学)

【司会者】長濱文与(三重大学)

【報告者】中山留美子(三重大学)

小川雅広(山口県立大学)

1. 企画の趣旨

近年、大学教育においても学生同士のグループ活動を中心とした実践が広く行われている。しかし、単に学生をグループにするだけで活発な議論が展開するわけではない。学生の活動を活発化するような理論と技法、さまざまな仕掛けや工夫が重要となる。

本ラウンドテーブルでは、協同教育の理論と技法に基づいて学生の活動を中心とした教育を試みている二つの実践をとりあげた。これらの実践における実施のポイントやその成果を共有することを通して、協同教育の理論や技法をどのように具現化するかにあつての議論を展開することを目的とした。

一つ目の実践は、三重大学における全学統一の初年次教育科目に関する報告であつた。本実践では、4名・5名からなる固定グループを構成し、隣同士のペアによる活動から4名でのグループ活動、そして、クラス全体が交流するような活動など、協同教育における単純な技法から、より複雑な技法へと段階的に展開するような授業設計が組まれている。

二つ目の実践は、山口県立大学における自然科学系科目での LTD 学習法に関する報告であつた。LTD 学習法は協同教育の技法の中でもかなり複雑な技法である。読書課題を題材とし、8ステップからなる過程プランに基づいて、予習(個人思考)とミーティング(集団思考)を行うことで、読書課題の理解を深めていく方法である。

どちらの実践も単に技法を取り入れるだけでなく、その技法の背後にある理論や考え方までも学生に理解・共有させている点が共通してい

た。これらの点も踏まえてフロアと議論が展開できることを目的とした。

2. 実践報告：三重大学の取り組み

(1) はじめに

三重大学では、2009年度より、グループ活動を中心とした初年次教育プログラムを開発し、全学的に展開している。全15回の授業は、初年次教育で一般的な学習内容について、ディスカッションを通じた学習を進めるとともに、その学習内容を活かしてプロジェクト活動(PBL)を進めるという内容となっている。

グループ活動(対人関係)に対するレディネスが様々な学生たちを、ディスカッションやプロジェクトという高度なグループ活動にスムーズに導入するには、課題を取り組みやすいものに設定するという内容的な工夫だけでなく、個々の学生が確実に発言でき、グループのメンバーと相互作用できるようにするような、構造上の工夫を行っていく必要があつた。

このような背景から、協同教育の理念と技法を導入した授業づくりを行っている。本報告では、実際に行っている工夫について、授業の時間的流れに沿って紹介した。

(2) 授業の実施方法

1) 授業開始初期(第1~2回)：ペアからグループへ

第1回には、グループでの自己紹介の活動を行う。この際、まずペアで自己紹介を行ってから、グループ全体に対してペアを紹介するという段階的な方法を取ることで、相互作用における心理的な負担を可能な限り減らす工夫を行っている。第2回からのディスカッションでは、

与えられたテーマに対する意見を、メンバーが決められた時間・順番で報告していくという形(ラウンドロビン)をとっている。

2) 中期(第3~8回) : グループからクラスへ

中期では、毎回の学習内容をプロジェクトのプロセスに合わせて構成している。その中で、グループで議論する、他のグループからアイデアをもらう、グループの意見を全体に発表する、などの活動を組み合わせている。例えば第8回では、グループのプロジェクト進捗状況を他のグループに説明し、さらに良くするための視点をもらうといったグループ間活動(特派員)を実践している。

3) 後期(第9~11回目) : グループ活動の深化

後期は、活動の課題や目的を明確にすることには留意するが、細かな手順は指示せずグループでの活動を進めさせる。学生はこれまでの学習内容や活動を活かして、グループのプロジェクトをまとめていく。

3. 実践報告 : 山口県立大学の取り組み

(1) はじめに

LTD学習法を導入した自然科学系科目に関する実践報告は少ない。報告者は、ここ数年教養科目の「生物学」を教えてきた。受講生は、1~2年生(約15名)である。授業は、教科書の内容に従ってその内容を分かりやすく表現したパワーポイントを用いて行ってきた。しかし、この授業形態では学生の学習の活動性が低いと常々感じていた。学生による意見発表、学生による授業実施等を行ってきたけれども、やはり目立った学習の活動性の向上にはつながらなかった。そういう中で、「協同教育」と巡り合い、さらにLTD学習法を知った。そこでこの手法を用いて「生物学」の授業をこの2年間実践した。本ラウンドテーブルでは2011年度前期に実施したLTD学習法を取り入れた生物学の授業について報告した。

(2) 授業の実施方法

①教科書 : 田村隆明『コア講義 生物学』裳華房②授業構成(全15回)1回目:LTD学習法について(なぜLTDなのか)説明, 2回目:LTD学習法の練習, 3~12回目:教科書の各章についてLTD学習を実施(予習ノートを使ったミーティングの実施), 13~14回目:全章についての解説(パワーポイントを用いて), 15回目:まとめの実施。

(3) 学生のLTD学習方法

①1回の授業:1章(約15ページ)を実施する。②予習ノート作成:事前に配布された様式が印刷された予習ノート(A4)を使って自宅で予習をする。予習ノートはSt.1~St.7で構成され、それによって予習をする。予習ノートは鉛筆を用いて作成する。③授業:4人一組でグループを作る。予習ノートを用いてミーティングを実施する。先ず互いのノート交換を実施し、確認をする。それからミーティングに入る。St.1からSt.7まで順番に話し合う。気づきは赤色ボールペンで、追加記述する。そして復習では青色ペンを使い、字の色分けでどの段階で理解が出来たか理解する。

(4) LTD実践に関する調査

①アンケートの実施:学生の協同意識にどのような変化が現れるかを調べた。②学習の効果測定:LTD学習で、一般的な試験と論説型の試験を実施し、その間で違いが現れるかについて調べた。③学生の感想:LTD学習法を取り入れた授業について学生がどのような感想を持ち、また、自分の学習について変化が生まれたかについて調査した。

(5) LTD実践結果

本実践で得られた成果について、以下の3点から報告した。①協同学習の意識について②試験結果について③LTD学習に対する感想について。